

ことのほか寒い日が続いています。お風邪などひいておられませんか。この寒さのなかでも水仙のつぼみがふくらみ始めています。当協会もアメニティ・アカデミーの開講も近づきました。「春遠からじ」です。

お知らせ

- ・歴史的建築物研究会 2012年2月18日(土) 神戸市・旧居留地(すでに定員に達しました)
- ・町並み研究会 2012年3月10日(土) 大阪市・住吉、阿倍野地区
- ・ヴォーリズ六甲山荘公開再開 2012年4月7日(土)
- ・建物の保存を考える in Tokyo 2012年4月7日(土) 横浜旧居留地
- ・アメニティ・アカデミー「ヴォーリズ建築再見」開講 2012年4月
- ・和のこもの展 2012年4月25日(水) 26日(木) 草志舎
- ・英国ナショナル・トラストの旅 2012年6月10日～19日 スコットランド

予告1 <アメニティ・アカデミー> セミナー「ヴォーリズ建築再見」開講

1月号でご案内しましたアメニティ・アカデミーのセミナーを開講します。これは当協会の理念にそったテーマをとりあげ、共に考えていこうという企画です。

第1期は「ヴォーリズ建築再見」と題して、この分野では第一人者のお二人を迎えての講座です。ヴォーリズの作品についてはもちろん、その思想についても学ぶ、これまでにない充実の内容になると期待されます。

このセミナーは4月から9月までの5回で連続受講を原則といたします。定員が限られていますので、お早めにお申し込みください。

参加費(全5回) 会員 15,000円 一般 20,000円
定員 30名

神戸女学院本館飾りガラス→



- 第1回 4月14日(土) 講師：山形政昭 「ヴォーリズの建築活動とその広がり」 <草志舎>
 第2回 5月12日(土) 講師：石田忠範 「ヴォーリズの問いかけにこたえる(その1)」 <*神戸女学院社交館>
 第3回 6月9日(土) 講師：山形政昭 「珠玉の煉瓦造教会堂に見るヴォーリズ建築の特色」 <*大阪教会>
 第4回 7月14日(土) 講師：石田忠範 「ヴォーリズの問いかけにこたえる(その2)」 <*ヴォーリズ六甲山荘>
 第5回 9月8日(土) 講師：山形政昭 「関西学院の住宅建築を中心に」 <*関西学院>

< >内は会場、*印はヴォーリズ建築です。

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

予告2 <第37回町並み研究会> 住吉・阿倍野を訪ねる～「邸宅と長屋」めぐり～

大阪市南部には古代より崇敬されている住吉神社をはじめ歴史を語る名所旧跡が散在しています。また建築では安藤忠雄の住吉の長屋、和館洋館が並ぶ帝塚山、戦災をまぬがれた多様な長屋が残る阪南町など興味は尽きません。浅春の半日をご一緒しましょう。

日時 2012年3月10日(土) 午後1時～5時半ごろ

集合 近鉄大阪阿部野橋駅 1F 西改札口(天王寺界限は大規模工事のため混雑しています。集合場所についてはチラシまたはホームページでご確認ください)

参加費 会員 1,000円 一般 2,000円

定員 30名

締切 定員に達し次第締め切ります

阪南町の長屋→



詳細は同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

【コラム】

ヴォーリズ六甲山荘の謎解き（その2）

清水 彬久

自然の風景を上手に切り取り魅力的に見せる建築のことを、古くから「生けどる」と言っているようです。京都の詩仙堂などはサツキで美しい庭園を柱と鴨居と敷居の枠に収めることで絶妙な構図ができあがっています。また周囲の自然を借景に取り込んだ好例としては比叡山の遠景を正面の据えた京都の円通寺、大和盆地を一望できる奈良の滋光院なども挙げられるでしょう。

実はヴォーリズ六甲山荘にも、この「生けどる」の効果を取り入れている部屋があります。玄関を入った広いリビングがそうです。その位置は北西に取られています、この二面は総窓の造りとなっています。その最大の理由は、この建築が避暑のために過ごす山荘であることです。そのための工夫として日本では珍しい北側を庭園のスペースとし、そこに面してリビングとテラスを配置したことに由来しています。その結果、部屋には直射日光が入るのを避けられると共に、南に向いて咲く花々等季節の光景を鑑賞できるのです。しかし難点としては通常の間取りでは日が射さないために部屋が暗くなってしまいます。それを解決するために採用したのが二面から明かりを取り込む大胆な設計となったのでしょう。ですからリビングが、パノラマのような外界の自然と一体となった明るすぎず暗すぎない空間が生まれました。そして、部屋の中央に暖炉を置き、高い天井に松の太い梁、節のある桧の板壁、頑丈な檜材の床という材質の重厚さで室内を構えることによりヴォーリズ建築の特色である居心地の良さを醸し出しています。

ここから謎解きが始まります。魅力的な空間形成のために二面を総窓にすることは、構造的な強度を犠牲にするという問題があり、設計上対策が必要となります。そのために屋根等の上からの重みは、二面に太い桧の柱を六本配置し、天井に太い梁を掛けることで頑丈に支えられています。ところが、この目で確認できる工法だけでは十分な処置だと判断しなかったようです。その秘密は天井裏にあります。そこに上りますと、まず驚かされるのがその広さです。合掌造りの階上部分のような構えで中央部分の高さは3メートル程有にあるでしょう。屋根の傾斜部分は、複数の太い棟でスレート葺き瓦の重みを支えています。そして底辺部分の梁はリビングのスペースにも重層的に組まれ基礎的補強していることが分かりました。この梁の二重構造が、「生けどる」リビングの誕生と80年の風雪に耐えてきた影の功労者だったのです。

予告4 英国ナショナル・トラストの旅〜スコットランド編

なだらかな丘陵がつづくイングランドとちがって、スコットランドの自然は深い谷や断崖絶壁など荒削りな印象が魅力です。人々も自分たちが「スコットランド人」であることを誇りにして固有の文化を大切に守っています。そんな魅力ある国を訪ねてみませんか。

月日 2012年6月10日～19日（7泊9日）

参加費 会員 397,000円 一般 407,000円 成田発は1万円プラス

ご報告1 新年会 2012年1月9日（月・祝） 草志舎

いつもながら楽しいひと時でした。たくさんの料理とお酒の差し入れがあり、歌あり踊りあり演奏あり手品あり・・・と皆さんの芸達者ぶりも拝見でき、おおいに盛り上がりました。神戸市に避難しておられる被災者のお二人も参加してくださったのもうれしいことでした。



ご報告2 歴史的建築物研究会 2012年1月21日（土） 西宮市・甲子園地区

旧甲子園ホテルでは建築のことだけではなくホテルの歴史についても詳しい案内をしていただき、いかに「リッチな」ホテルであったのかが実感できました。旧新田邸はいろいろな意匠がとりいれられていて、和洋折衷住宅の豪華な典型ぶりでした。最後の訪れた甲子園球場では大勢のスタッフが対応してくださり、普段ははいれない貴賓室なども見学できました。特に一塁側ベンチに案内してくださったのは感激でした。



旧甲子園ホテル→

本書の著者である矢田部英正氏は、もともと学生時代は身体の動きの極限を表現する体操競技のアスリートとして活躍していたところ、体を痛めたことで競技生活をあきらめ、日本の伝統的な「身体技法」に係わる研究分野の道に入ったという異色ともオーソドックスともいえる研究者である。

「身体技法」とは、著者によれば、フランスの民族学者マルセル・モースが、文化や習慣により培われた立居振舞いには固有の法則性があることを発見し、これを「身体技法」と名づけたというものである。そしてモースは「姿勢や歩行、食事や労働、休息時などに見られる個々の身体技法は有機的な関連性をもっていて、それらが社会秩序を形成していく上で最も本質的な役割を果たしている」という身体技法論を提唱したのである。

著者は、大学ゼミの学生諸氏の力を得て収集した数多くの絵図・写真等の史料に基づき、「身体技法」の視点から実証的に日本人の坐生活の様子の変遷をたどり、新しい知見を示している。その中で「正座」を唯一正しい作法とする今の常識とは異なり、礼法や茶の世界においても自由度の高い多様な坐り方があったことも明らかにしている。絵図や写真には、今とは違う着物を着ているが立膝の女性の姿や、あろうことか幕末武士のヤンキー坐りなどもあり、載せられた図像史料だけ見ても大変興味深い。

本書の企画は、豊への郷愁から生まれたものというが、背景には「現代における床坐の衰退は、永い永い年月をかけて身体化された文化資本が大きく崩壊していく『文化の地崩れ現象』のように私には見える。」という筆者の危機感がある。一読をお勧めしたい一冊である。(集英社新書)

＜次回は白川賀津子さんをお願いします＞

予告の予告

第11回・建物の保存を考える in Tokyo～横浜

恒例の東京での活動を今年は次のように企画しました。

月日 2012年4月7日(土) 訪問先 横浜居留地(旧日本人街と居留地)

横浜の建物と歴史に詳しい嶋田昌子さん(横浜シティガイド協会副会長)のご案内でまわります。

詳しくは3月号でご案内いたします。お楽しみに！

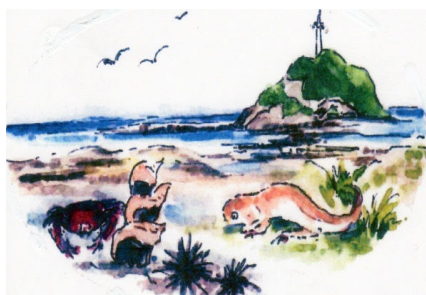
◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

あこがれの「天神崎」を訪れて

木下 光代

私が、入会したきっかけは、天神崎に行けるからでした。3月に予定されていたのですが、東日本大震災により延期となったのです。12月11日、あこがれの天神崎へ出発です。集合場所で澤さん御夫妻が待っていて下さり、ほっとしてバスに乗りました。清水順子事務局長さんがお電話で受けた印象通りの柔らかな方で何だかうれしくなりました。

車中で、パンフレットの絵やDVD「日本ナショナル・トラストさきがけの地・天神崎」を見て、小さなアラレタマキビガイは、夏、地表が熱くなると熱さをさけるため、お互いの貝の上に乗って、3段4段の塔のようになるなどの、話もお聞きし、天神崎の事前学習をしました。



天神崎のパンフレットの絵

田辺駅前の「宝来寿司」で昼食の後、いよいよ天神崎へ。現地バスを降り、歩き始めると、「天神崎の自然を大切にすの会」の玉井済夫先生(業務執行理事)から、アミを渡されました。今まで使った事もない私に、何がとれるのかしらと思いつつも、小さな子供のようにアミを高く振り上げ、磯に向かいました。平らな岩礁が広がり歩きやすい。「小さなやどかりいるよ！」と言われたものの、アミですくえず、手でとる方が早い！。向こうの岩から「下の方へ流すので、アミで待ちかまえて」という声。何がやってくるのかと待ったものの、流れてこず・・・。「みんな集まって」と玉井先生。先生が獲られ、バケツに入っていたナマコを「持ってごらん」とおしゃやる。手にとると、ぐにゃぐにゃ、ぶよぶよとやわらかい。何んだか、いつまでも手の中に入れておきたい感じ。何人かの人の手を渡った後、白い糸状のものが出ている。「これがつくととれないから気をつけて」と玉井先生。ナマコが怒ったら吐き出されるものだそうです。しおだまりに清々しく茂っていたアオノリを食べてみると磯の香りが口の中に広がりおいしい！少しおみやげにしようといってきたアオノリですが、宿の冷蔵庫に忘れてきたのは心残りでした。

磯で親しんだ後は、この磯の生態をはぐくんでいる日和山へ登りました。ウバメガシの林の中を登りつめた頂上からの景色は素晴らしく、バスの中で見せていただいたDVDの中で、天神崎の子供たちが明るく元気よく歌

っていた光景を思い起こしました。

リゾート地として開発される予定であった天神崎の地を、地元の方々がナショナル・トラスト方式で確保保全され、私達に自然観察・学習の場として、貴重な体験をさせていただいた事は、大変印象深く心に残りました。

アメニティ 2000 協会の行事に初参加でしたが、程よいお天気に恵まれ、天神崎の見学をはじめ、熊楠邸、湯浅、黒江で、偉大な生態学者、古い町並みの美しさ、伝統・文化（醤油の醸造、漆器製作など）の見聞を広めることができ、興奮と感動一杯の内容でした。お世話して

下さった方、お話しして下さいました皆様へ感謝！感謝！です。ありがとうございました。



六甲山荘たより

日本中が寒波に襲われていますが、六甲山では12月から雪の日がありました。そんななかでもメンテナンススタッフの皆さんが時間をみつけては山荘に上がり窓をあけて風を通し、庭での作業をしてくださいました。皆さん、ありがとうございます！！そしてお疲れ様でした！！



アメニティ・レポートの原稿募集

5月末の総会にあわせて発行するアメニティ・レポート2011の「会員の声」への原稿を募集します。題は自由、日頃考えていること、印象に残ったこと、面白い経験などなど、お好きなことをお好きなように書いて、お寄せください。

字数：400字前後

締切り：3月末

皆さまの「お声」を楽しみにお待ちしております。

♪スタッフ募集♪

当協会では昨年に行っている東日本大震災共生事業、そして今年から始めるアメニティ・アカデミーの二つの事業を今後も継続して行っていきます。この活動に関心のある方を募集しています。事前の準備、当日の仕事など、一緒にやってみませんか。お気持ちのある方はご連絡ください。お待ちしております。

歴史的建築物研究会～西宮市・甲子園地区を訪ねる



甲子園球場 1 塁側ベンチ

* ご寄付いただけませんか *

六甲山荘の庭におく屋外用のテーブルや椅子を探しています。陶製でも金属製でも、もしご不要ながありましたら、ご寄付いただけませんか。